

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100201		
法人名	社会福祉法人 しあわせ		
事業所名	グループホーム しあわせ		
所在地	和歌山県和歌山市中之島500-10		
自己評価作成日	平成23年11月18日	評価結果市町村受理日	平成24年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3090100201&amp;SCD=320&amp;PCD=30">http://www.kaijokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3090100201&amp;SCD=320&amp;PCD=30</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成23年12月21日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は木を沢山使い、暖かみを感じられるような作りをしています。居室は全室トイレ完備で、和室3室・洋室6室になっています。ダイニングやリビングは利用者様がゆっくりと落ち着いて過ごせるような雰囲気作りを目指しています。職員は利用者様が「居心地よくしあわせに過ごして頂く」ように努力しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地の一角に位置する当該ホームは、小規模多機能型居宅介護事業所が併設され外観も普通の家と思わせる作りで地域に溶け込んでいます。地域密着型を意識し、日常的に近くの公園に散歩に出かけることで顔見知りが増え自然なふれあいがあつたり、自治会の会合や子ども達のラジオ体操等の場所として提供しています。夏祭りなどホームの行事には気軽に参加していただけるよう無料券を配布し地域交流が図られています。「居心地良くしあわせに過ごしていただく」という理念を掲げ、利用者一人ひとりを大切に、ゆったりとした関わりのなかで寄り添いながら、細やかなケアに取り組んでいます。また家族とのつながりを大切に、信頼関係を築くことで面会も頻繁にあり、居心地良く安心して暮らせるよう支援しているホームです。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員も少しずつ共有し、実践につなげる努力を行っている。	「居心地良くしあわせに過ごしていただく」と理念に謳い、玄関に掲げ職員間で共有し意識づけできるように努めています。利用者のしあわせを願い心に寄り添い、日々笑いのある楽しい生活を過ごしてもらうために関わりを大切にケアを心がけています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所内の地域交流室等で、自治会の会合を行っている。夏には地域の子供達のラジオ体操にスペースを提供し、グループホームの利用者も参加している。また、恒例の夕涼み会には沢山の地域の方や利用者や家族様の参加も増えてきています。	自治会に加入しており、会合や行事等に場所を提供しています。ホームの夏祭りには花火をしたり出店を出し、地域の方の参加も多くみられています。また夏休みのラジオ体操には、場所を提供し利用者も参加したり、シャボン玉を地域の子ども達と一緒に楽しんだりする等交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	取り組みが不十分である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター所長、地区役員、利用者家族等の忌憚ない意見をサービス向上に活かすように努力している。	運営推進会議は小規模多機能型居宅介護事業所と合同で2か月に1回開催されています。利用者、家族、自治会長、市の職員が参加され状況説明、行事の報告、地域交流事業等での意見、要望を聞く機会となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者と気軽に相談出来る関係作りに取り組んでいます。	市の職員が随時、状況を見に立ち寄っています。報告や相談事、困難事例等があれば事務長やケアマネージャーが市の担当者を訪問し協力関係を築けるよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関やデイへの通路は無施錠にしている。ただ「禁止の対象となる具体的な行為」については全職員が正しく理解出来ていないといえない。	玄関は7時から20時まで開放しており、出入りを自由にしています。隣接するデイサービスの職員との連携もとれ、自由に出入りができるように支援しています。受講した身体拘束の研修会内容の報告をしたり、現場のケアの中では、言葉による拘束についてその都度説明しています。今後も職員全体の理解を図るため勉強会をしていく方針です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学んでいる職員も居るが、全職員が理解するまでには至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受講している職員もいるが、全職員が理解していない。今後は理解し、活用出来るようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者の家族宅に出向き、管理者・ケアマネジャーが説明を行い、理解・納得して頂けるように心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	内部に苦情受け付け窓口を、外部には第三者委員を設置しています。その他に市、運営適正委員会等に申し出出来る旨を文書にて説明しています。	面会時や月1回の訪問時に利用者の状態を報告し、意見や要望が言い易い雰囲気作りに努めています。出された意見から、ドライブが好きな利用者には海を見に行く等、希望に沿ったサービスとなるよう取り組み、運営に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	最近職員会議が行えていない。日々の申し送り時に意見や提案を出してもらっている。	管理者は職員には言葉をかけ、意見や要望が出やすいように努めています。日頃の職員の様子を見ながら個人的に面談もしています。申し送り等で出された意見や提案は運営に取り入れ、職員が話しやすく働きやすい環境づくりを心掛けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来ていない。今後人事等含め、改善していきたいと考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を掲示したり、必要と思われる職員に参加を促しを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	色々な研修会や同業者の講演への参加を勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	現在の入居者の全員が当法人の他のサービスを利用していた方々で、本人が困っている事、不安な事、求めている事等はほぼ理解出来ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在の入居者の全員が当法人の他のサービスを利用していた方々で、本人が困っている事、不安な事、求めている事等はほぼ理解出来ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の入居者の全員が、入居前より当法人の他のサービスを利用していた方々で十分な話し合いの結果入居して頂いている。又、現在は満室となっているので、入居の申し込みがあった場合、他のグループホームの紹介小規模多機能型居宅介護等のサービスの紹介を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員にばらつきがあるも、築けていけるように努力を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一部の職員が中心になってきているが、これからは全職員が家族とそのような関係を築けるように努めていきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた時には、次回も気軽に来て頂けるように気配りをしています。	家族や兄弟等の面会は頻繁にあり、利用者が昔から親交している先生や友人が毎月来られています。また住んでいた家の周辺にドライブに出かけるなど一人ひとりの馴染みの場所や人との関係が継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や性格を考えて十分な配慮を行っている。時には職員を入れての関係をも考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の方が立ち寄ってくれる事もあります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中で、希望や意向を耳にすれば、ケア付き帳や連絡帳に記入し、検討していくようにしている。また、入居以前の暮らし方を参考に利用者本位を心掛けてしている。	基本情報として生活歴や好み等を聞き、意向を把握しています。日常の関わりの中で耳にした言葉や表情、様子や状態等をケア付き帳に記入し、家族から聞いた情報を参考にしながら、一人ひとりの思いの把握に努めています。困難な時は、表情や様子、発する言葉で読み取るようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前より全員当法人の利用者であり、サービス利用の経過等は個人台帳にも記入しており、その都度確認するように努めている。また家族様の訪問時に話をうかがったりしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	主に日勤リーダー、管理者は状態把握に努め、朝夕の申し送りに管理者・日勤者に伝え、意見交換を行っている。またケア付き帳や連絡帳にも記入しいつでも見られるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来るだけ現状に即した介護計画を作成している。	ケア付き帳や連絡帳に記入されたことを皆で検討し、本人や家族の思いを反映した介護計画を作成しています。3か月毎にモニタリングし見直しています。状況の変化があった時は都度見直しています。医療的な関わりについては必要時に医師の意見も計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、個別記録に記入し、その後パソコンに入力し、個別に管理している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助、入院介助したり、以前住んでいた自宅への一時帰宅等に職員が付き添いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の小学校より招待され、花火大会に参加したり、子供達のラジオ体操の場所提供し、利用者も一緒に参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族等の納得の得られたかかりつけ医の往診が定期的に行われている。往診の無いかかりつけ医の場合は付き添いで受診しています。	利用者が希望するかかりつけ医を継続できるように支援しています。提携医は24時間体制で、2週間に1回の内科医の往診と、眼科は月1回、皮膚科、歯科は必要に応じて往診が可能です。またデイサービスの看護師が1日1回は診に来ており、相談することができ、安心した生活に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人、家族等の納得の得られたかかりつけ医の往診が定期的に行われている。往診の無いかかりつけ医の場合は付き添いで対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院時には、管理者、職員が面会に行き、医師や看護師との情報交換に努めています。また、医師からの説明には管理者、ケアマネジャーも立ち会っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した利用者が入居していた時は、状態の変化の応じ繰り返し医師、家族等と話し合いの場を設け、方針を共有しています。また看取りの経験もあるが、事業所で出来る事を説明し、主治医、家族と相談しながら利用者にとって最良の方法を検討しています。	重度化や看取りの支援については医師、家族、本人、訪問看護師、職員と何度も話し合いを重ね、本人や家族の意向を尊重できるよう支援しています。医療行為が必要な方以外は、看取りの支援も行い、医師との信頼関係や連携が密となり職員同士も一丸となって取り組む事が出来ています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応講習等を受講している職員もいるが、施設内では定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内で年2回の消防避難訓練を実施している。また、地域運営推進会議において、地域の人々の協力を働き掛けている。	年2回の自主避難訓練は昼間と夜間を想定して行っています。また年2回は、消防署の立ち会いのもと消火器の使用法、避難場所の確認を行い訓練しています。運営委推進会議で地域の方の協力を働きかけていますが、まだ参加が得られていません。	地域との交流が活発な中、今後、回覧板に掲載してもらったり、ホームの行事と兼ねた日に実施するなど工夫されてははいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ほとんどの職員は出来ているが、利用者・仕事に対する慣れにより、出来ていない職員も見受けられる。	排泄時や入浴時には羞恥心に気を配る等、互いに意識し対応しています。幼児言葉を使った時など不適切な言葉での対応が見られた場合は都度注意し、人生の先輩であり尊厳を守るよう対応を話し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員に対する遠慮や、気遣いが無いか注意しながら、利用者に自己決定して貰うように援助しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れでは職員側の都合で行われる事があるも、利用者の個々に添った援助を支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在は訪問理美容を利用されています。個々の希望の毛染めやパーマも行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る利用者には、テーブル拭きやおしぼり配り、配膳等を行ってもらっています。	週5日の昼食以外は利用者と一緒に食事づくりをしています。メニューは利用者の希望を取り入れ一緒に買い物に行っています。盛り付けや配膳、下膳、テーブル拭き等の役割を持っている方もいます。職員も利用者と同じテーブルを囲み食事が楽しみとなる様支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量の記録を確認し、量が低下してきている場合は、原因を職員で考えて主治医に相談しながら対応しています。固形物の摂取出来ない利用者には経腸栄養剤の処方や細めな水分補給を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後すべての方に歯磨き、口腔ケアを行ってもらっています。週1回は夕食後に義歯洗浄液に浸け、消毒・消臭を行い、就寝時には義歯を外すように促しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により回数を把握しており、声掛けやトイレ誘導を行っています。失禁する事で不隠になる利用者には排泄パターンを考慮して失禁を軽減するように支援しています。	個々の排泄パターンを把握し、しぐさやサインをよみ取り、トイレでの排泄できるように自立支援に努めています。寝たきりであった方が毎日のリハビリで立位が保てるようになり、訴えがある時は、トイレでの排泄もできるようになった例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全ての職員が便秘の原因や及ぼす影響について理解できていないが、普段から水分補給、食事量や身体を動かす事が大事と考えています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は職員側がほとんど決めているが、その日の体調や失禁等によつての入浴などの対応は行っています。	入浴は週3回が基本で支援しており、重度の方は併設されているデイサービスの機械浴を利用しています。希望する方には同性介助で対応し、入浴を嫌がる方には、言葉かけやタイミングに配慮しています。またゆず風呂等を用い入浴が楽しみとなる様工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の状態や希望を考慮し、午睡をしてもらったり、室温・湿度の調整を行い、安眠を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者ごとに「お薬の説明書」は個人ファイルに入れています。ただ全職員が服薬の用途、副作用等を理解は出来ていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭きやおしぼりたみ、おしぼり配り、食事の配膳を行っています。また、個々に好きな事(塗り絵、文字を書く等)をしたいときに行えるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブに出かけたりと出来るだけ戸外にできる事を支援しています。また季節感を感じれるように初詣や花見・紅葉等を行い、外食をする事で社会とのふれあう機会を出来るだけ多く作っていきます。また、施設の合同バス旅行も参加しています。	天気の良い日はほとんど毎日、近くの公園に散歩に行っています。海を見たい利用者の思いからドライブに出掛けたり、外食を楽しむこともあります。また季節を通して初詣、花見、紅葉を見に行けるよう支援しています。年1回は法人の合同バスで車いすの方も一緒に遠出しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があり、家族が了承の場合はお金を自分で持ってもらっています。また、お金を使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望の利用者には施設の電話を使ってかけたり話したりされています。また、年賀状を家族等に出したりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花が飾られており、リビングやダイニングには床暖房で心地よい暖かさを、サニールームには日の光がさんさんと差し込んでとても明るい作りになっています。	玄関には季節の花があり、下駄箱の上には手作りの作品が飾られています。台所からは食事の匂いが漂い家庭的な雰囲気があり、リビングで過ごす環境はソファの配置や飾り物、灯りが心地よく過ごせるように工夫されています。また庭に花や野菜を栽培することも生活の楽しみとなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サニールームにはテーブルと2～3脚の椅子が置いており、リビングやダイニングから離れているので気兼ねなく利用できます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の写真や使い慣れた筆筒や小物、信仰している神棚、布団等を置いたり使ったりして頂いています。	使い慣れた筆筒や神棚等が持ち込まれており、その人らしい居室となる様支援しています。趣味である色鉛筆を使った作品、小物、思い出の写真も飾られ、居心地良く暮らせる空間となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人状態に添った物(ベッドやベッド手摺り等)を使用してもらい、出来るだけ本人の力を活用できるような工夫と支援を行っています。		